

令和7年度第1回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会 議事録

日時・場所： 令和7年6月16日（月）13時30分～15時20分 教授会室  
出席者（対面）： 井手理事長、福永副理事長、森下理事、松岡理事、中嶋理事、北村理事  
出席者（オンライン）： 石井委員、伊藤委員、小倉委員、塚本委員、山口委員  
欠席者： 小玉委員  
事務局： 中井事務局次長、前田総務課長、古澤財務課長、寺村経営企画課長、堀口学生・就職支援課長、川崎教務課長、小椋地域連携・研究支援課長、越後高専開設準備局長、堀江高専開設準備局次長（兼）総務・施設整備課長、南高専開設準備局学部課長、経営企画課 加藤主幹、濱野主幹、林主幹

【審議事項】

（1）第4期中期計画の進捗管理・令和6年度計画進捗状況・令和7年度計画等について

（2）令和6年度事業報告について

議題（1）および（2）は関連がある内容のため、一括して審議することとされた。

寺村経営企画課長より、それぞれ資料に基づき説明があり、審議の結果、審議事項（1）については原案のとおり進めることとし、審議事項（2）についてはあらためて次回経営協議会で審議することが承認された。

〔主な質疑・意見等〕

- ・中期計画8番のリカレント教育やリスクリテラシー教育に関する事項について、進捗レベルがCとされているが、進捗しない理由を教えてください。

先日、滋賀県知事から「2100年を展望した「モノづくり」と「ひとづくり」」という題目でのプレゼンテーションがあり、県としても産学連携として稼ぐ力の強化やイノベーションの推進を掲げていたところなので気になった。

→ リカレント・リスクリテラシーの目標に対して指標として「現行の学部・学科において編入学生の履修モデルを作成する」「一般入試とは異なった、社会人向けの受入・入学制度を導入する」といった少し高めの指標を設定している。従来から編入学や社会人入学の制度は用意しているが、更に入学しやすいよう履修モデルを作ることや、短大や高専からの編入学がしやすい制度を作ること等を考えているため、進捗はしているものの、令和8年度の入試には間に合わなかったことから進捗レベルCという厳しい目の評価とした。

- ・企業側の専門知識のある者が大学の研究室等に出向き、更に勉強・基礎力を上達させるような発想はあるか。

- リスキリングについては第4期中期計画として力を入れいくこととしており、しっかりと取り組んでいく。
- ・産業界としてもリスキリング・リカレント教育は課題と考えている。企業側が展開しやすいよう、より実効的な工夫をしていかなないとなかなか進まないと思う。大学側だけでなく企業側としてもどういう展開をしていくかを考えなくてはならないと考えている。
- 中期計画の25番や41番でもリスキリングに関する目標を掲げている。本学として、これまでは地域共生センターの地域教育プログラム「近江環人地域再生学座」をベースとしたリスキリングプログラムを中小企業家同友会と過去3年ほど進めてきた。
- 今年度からは滋賀大学と共に文部科学省のリカレント教育エコシステム構築支援事業に取り組むこととしており、滋賀大学はデータサイエンスや経営戦略、本学は地域課題のビジネスへの展開など、それぞれの大学の強みを生かしつつ、各企業の中堅職員以上の方のレベルアップを図るプログラムの展開を考えている。県内の経済団体や金融機関からのご意見もいただきながらプログラムを充実させていきたいと考えている。
- ・地道な努力をされていることは良く理解できるし、そのように認識している。一方で企業側の努力も相当あるが、更に全面展開できているような工夫がしていかなければならないと思う。優秀な、比較的歴史の浅い企業等への展開も必要であると感じているので、この点を強調しておきたい。
- 課題として十分意識しながら取り組んでまいりたい。

### (3) 令和6年度決算・財務諸表(案)について

古澤財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

〔主な質疑・意見等〕

- ・学生1人あたりの教育経費については理系・文系全て込みで計算しているか。
- そのとおり。
- ・文系と理系とでは1人あたりの教育経費に差があるので、それぞれで集計しないと他大学との比較等ができないのではないか。
- ご指摘のとおり文系が多い場合は低く、理系や医療系が多いところは高い傾向にあると認識している。分野別の比較も可能とは思いますが、今回は類似の公立大学平均との比較をするためこの数字を用いている。
- 学生1人当たりの教育経費が比較的低いことは課題と認識している。今一度文系・理系ということを分けて分析させていただきたい。一方で、学生1人当たりの教育経費が高いところは学生寮等を持っているところが多いということも聞いている。そのようなことも含めて本学の現

状の値については十分に分析してまいりたい。

(4) 令和7年度補正予算(案)について

古澤財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(5) 旅費規程の改正について

古澤財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(6) 経営協議会からの理事長選考会議委員の選出について

【報告事項】

(1) 法人の組織体制構築の進め方について

審議事項の議題(6)と報告事項の議題(1)は関連がある内容のため、一括して説明することとされ、前田総務課長より、資料に基づき説明があった  
議題(6)については、協議の結果、学内委員として福永副理事長が選出された。

(2) 滋賀県立高等専門学校開設の準備状況等について

越後高専開設準備局長より、資料に基づき説明があった。

〔主な質疑・意見等〕

・コロナ禍での大学の運営はすごく苦労されたと思う。高専の建設にあたり感染症対策に配慮した工夫は何かあるのか。

→ 感染症対策のためだけということではないが、今回情報系の分野を重点的に学ぶようなカリキュラム構成を検討しており、オンライン環境を十分に整備するよう考えている。こういった整備をすることでコロナ禍のような場合も授業ができると考えている。また、教室についてもレイアウト変更等がしやすくなるよう整備することとしている。

【資料配布】

(1) 令和6年度卒業・修了者の進路状況等について

〔主な質疑・意見等〕

・県内企業等への就職率が22.6%と前年より4.0ポイント下がっている。この理由をどのように分析されているか。

→ 例年に比べて人間看護学部学生の県外の医療機関へ就職する者が多かったことが影響していると考えている。医療機関以外の民間企業や公務員等についての県内就職率は例年から大きな変動はなかったと分析している。

- ・ 県内就職者のうち、県内出身者と県外出身者それぞれの人数はわかるか。  
→ 次回ご報告させていただく。

(2) 令和7年度各入学試験の結果概要について

〔主な質疑・意見等〕

- ・ 新設された人間看護研究科の博士後期課程では定員2に対して4名入学ということで良かったと思う。一方で工学研究科は修士課程からの進学があまりない等、他の研究科は定員に対して後期課程の院生が少ないという印象を受ける。リカレント教育を大学がやっていくということで大学も研究に力を入れていかなければならないと思う。何か修士課程から博士課程への進学を呼び込むようなことは考えているか。

→ これから少子化に向かう中で研究については大学院に軸足を置いていく必要があると認識している。

- 特に工学研究科では修士課程から博士課程への進学が殆どないことに苦慮している。一方で、後期課程まで進学しなくとも求人がたくさんあるということでもある。

同研究科の後期課程に今年度入学した2名のうち1名は他大学の修士課程修了後に企業に就職し、企業に籍を置きながら入学した者で、これはリカレント教育のひとつだと考えている。もう1名は本学の修士課程修了後に企業へ就職したが、もう一度基礎的なことを学びたいということで企業を退職して入学してきた者である。

ご指摘いただいたとおり募集人員に対して学生が少ない状況は課題と考えているので、これからも努力してまいりたい。

- ・ 資料の作り方として、進学が内部からなのか外部からなのか、内訳がわかりにくいものになっている。見やすくなるようにしていただけると良いと思う。

→ 工夫をさせていただく。

【その他】

なし

以上